

標準施工要領書  
ハイモル<sup>®</sup>補修用

昭和電工建材株式会社

建設資材営業部

〒221 - 0024

神奈川県横浜市神奈川区恵比須町 2 - 1

TEL 045(444)1691 FAX 045(444)1699

## I 施工の目的又は適用箇所

1. RC躯体の補修（目違い・ピンホール等）及びその他コンクリート二次製品等の補修
2. RC躯体の、壁・天井・梁・柱面への薄塗り（床面を除く）
3. 直仕上げ以外の床面補修

## II 使用材料

### 1. 材料

ハイモル補修用————— 25kg/1袋

ハイモルスーパー#10————— 25kg/1袋

ハイモルスーパー#100————— 25kg/1袋

ハイモルエマルジョンペタルスEV-300————— 18kg/1缶

### 2. 機器工具

- (1) 練混作業用機具
- (2) 運搬具
- (3) 作業工具

## III 下地処理

下地コンクリートのレイタンス、硬化不良部分は除去し、塵・ホコリ等を十分に清掃してください。  
塗り付け箇所は、ハイモルエマルジョン5倍液にて、シーラ処理を行ってください。

## IV 塗布

### 1. 標準配合比

	標準配合比	練上り量 (1袋当り)	標準塗布面積	可使 時間
ハイモル補修用	補修用 + 水 + ハイモルエマルジョン 1袋(25kg) + 5.5~7.5ℓ + 1~2kg	22ℓ	11m <sup>2</sup> 塗厚2mmの場合	約1時間
ハイモル スーパー#10	スーパー#10 + 水 + ハイモルエマルジョン 1袋(25kg) + 約7ℓ + 2kg	20ℓ	20m <sup>2</sup> 塗厚1mmの場合	
ハイモル スーパー#100	スーパー#100 + 水 + ハイモルエマルジョン 1袋(25kg) + 約2.7ℓ + 1.5kg	14ℓ	2.8m <sup>2</sup> 塗厚5mmの場合	

2. 施工個所による塗厚と材料

(1) 壁・天井・梁・柱面

塗厚		使用材料	施工手順
1～2mm		スーパー#10	<p>付け送り部分の下塗り（1mm）</p> <p>↓ 1～2日養生</p> <p>補修面とコンクリート面が面一になるよう上塗り（約1mm）</p> <p>↓ 塗布面の表面水が引いた時点で 金鋸押さえ又は刷毛引き仕上げ。</p>
3～6mm	部分補修	<p>補修用 +</p> <p>スーパー#10</p>	<p>付け送り部分の下塗り（補修用 約3mm）</p> <p>↓ 1～2日養生</p> <p>付け送り部分の上塗り（補修用 約3～0mm 2回に分けて）</p> <p>↓ 7日以上養生</p> <p>補修面とコンクリート面、全面に上塗り（スーパー#10 約1mm）</p> <p>↓ 塗布面の表面水が引いた時点で 金鋸押さえ又は刷毛引き仕上げ</p>
	全面塗り	補修用	<p>下塗り（上塗りの厚みが一定になるよう塗厚を調節）</p> <p>↓ 1～2日養生</p> <p>上塗り（3～4mm）</p> <p>↓ 塗布面を指で押してもへこまなくなった時点で 定木又は木鋸にて平滑に仕上げ</p>
7～10mm	部分補修	<p>補修用 +</p> <p>スーパー#10</p>	<p>付け送り部分の下塗り（補修用 4～5mm）</p> <p>↓ 1～2日養生</p> <p>付け送り部分の上塗り（補修用 5～6mm 2回に分けて）</p> <p>↓ 7日以上養生</p> <p>補修面とコンクリート面、全面に上塗り（スーパー#10 約1mm）</p> <p>↓ 塗布面の表面水が引いた時点で 金鋸押さえ又は刷毛引き仕上げ</p>
	全面塗り	補修用	<p>下塗り（上塗りの厚みが一定になるよう塗厚を調節）</p> <p>↓ 1～2日養生</p> <p>上塗り（4～5mm）</p> <p>↓ 塗布面を指で押してもへこまなくなった時点で 定木又は木鋸にて平滑に仕上げ</p>

※天井・梁・階段裏などを施工する場合はできるだけ薄くし、特にドカ付け、金鋸押さえによるもみ浮き（特に1回塗り）に注意する。

(2) 床面

塗厚		使用材料	施工手順
1～2mm		スーパー#100	凹部分又はピンホール部を下ごすり ↓ 1日養生 補修面とコンクリート面が面一になるよう上塗り(0.7～1mm) ↓ 塗布面の表面水が引いた時点で 金鋸押さえで仕上げ
3～6mm	部分補修	補修用又は スーパー#100 + スーパー#10	凹部分へ擦り付け(補修用又はスーパー#100) ↓ 上塗り(擦り付けと同じ材料で) ↓ 7日以上養生 補修面とコンクリート面、全面にしごき(スーパー#10 約1mm) ↓ 塗布面の表面水が引いた時点で 金鋸押さえで仕上げ
	全面塗り	補修用又は スーパー#100	ハイモルマルジョン4～5倍希釈液を散布しデッキブラシで刷り込み ↓ 乾燥しないうちに 追っかけ施工(補修用又はスーパー#100)
7～10mm	部分補修	補修用又は スーパー#100 + スーパー#10	付け送り部分の下塗り(補修用又はスーパー#100 4～5mm) ↓ 1～2日養生 付け送り部分の上塗り(同じ材料で 5～6mm 2回に分けて) ↓ 7日以上養生 補修面とコンクリート面、全面に上塗り(スーパー#10 約1mm) ↓ 塗布面の表面水が引いた時点で 金鋸押さえで仕上げ
	全面塗り	補修用又は スーパー#100	ハイモルマルジョン3～5倍希釈液を散布しデッキブラシで刷り込み ↓ 乾燥しないうちに 追っかけ施工 下塗り(補修用又はスーパー#100 3～4mm) ↓ 1～2日養生 上塗り(4～5mm) ↓ 塗布面を指で押してもへこまないようになった時点で 定木又は木鋸にて平坦にし、金鋸押さえで仕上げ

※ハイモル補修用—————張り物、敷き物の下地に使用。

倉庫、駐車場床などの直仕上げには不可。

※ハイモルスーパー#100————耐摩耗性を必要とする直仕上げに使用する。

### 3. 施工上の注意

- (1) 下地コンクリートが乾燥している場合は、適度の水湿しを行うかハイモルエマルジョンの3～5倍希釈液を塗布する。
- (2) 凹部分、ピンホールには鋳圧をかけて刷り込むように塗布する。
- (3) コンクリート面と面一になるゼロ接点部分の処理
  - ①ハイモル補修用の場合——— 鋳圧をかけ補修箇所のゼロ接点部分をしごく。
  - ②ハイモルスーパーの場合——— スーパー#100は重量骨材を使用しているためゼロ接点を得られないので、ゼロ接点部分はスーパー#10で補修箇所周辺をしごく。
- (4) 気温が5℃以下の時は施工を中止するか、適当な保温、採暖を行う。
- (5) 施工中及び施工後、硬化前に、降雨、降雪のおそれがある場合は施工を中止する。
- (6) 現場にて砂セメント等を追加混入することは絶対に避ける。
- (7) セメント製品に特有の現象である白華（エフロ）が発生することがありますが、品質には異常ありません。

## V 養生

1. 各塗り層共急激な乾燥を避け、十分な水和反応が得られるよう施工後2～3日は湿潤状態で養生を行う。特に夏期では、西日などによる日照りによって急激に乾燥するので、作業前にシート等で覆ってから塗り付けにかかる。
2. 冬季には施工後の凍結を防止する措置を講ずる。
3. 仕上げ後は、他の仕上げ工事などで塗布面が汚染・損傷されないよう適切な養生を施す。
4. 塗布面に仕上げ材を施工する場合は、上塗り施工後10日（冬季14日）以上養生期間を取る。

## VI 注意事項

### 1. 使用上の注意

- (1) 取扱い時は必ず保護具（保護手袋・保護眼鏡・保護マスク等）を着用する。
- (2) 取扱いは換気の良い場所にて行う。
- (3) 取扱い後はうがい及び手洗いを十分に行う
- (4) 使用後の機具類は早めに水洗いする。

### 2. 応急処置

- (1) 目に入った場合  
直ちに多量の水で15分以上洗眼し、医師の手当てを受ける。
- (2) 皮膚に付着した場合  
直ちに水で良く洗い流し、必要に応じて医師の診断を受ける。
- (3) 誤飲した場合  
多量の水を飲ませ吐かせた後、直ちに医師の診断を受ける。

### 3. 保管上の注意

- (1) 雨露のかからない湿気の少ないところに保管し、地面に直接放置しない。
- (2) 購入した材料は3ヶ月以内に使い切る。

### 4. 輸送上の注意

- (1) 袋の損傷による内容物の漏れが無いことを確認する。
- (2) 転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- (3) 湿気、水濡れに注意する。

### 5. 廃棄上の注意

- (1) 都道府県条例に基づき処理するか、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

### 6. 漏出時の注意

- (1) 飛散したものは掃除機で吸い取るか、スコップ、ほうき等で集め、袋に回収する。
- (2) 排水は中和、希釈処理などにより、河川等に直接流出しないよう対策を取る。